

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

わが国の麻疹排除認定～2015年3月～

国立感染症研究所 感染症疫学センター
多屋 馨子

2015年3月27日にWHO西太平洋地域事務局は、日本に加えて、カンボジア、ブルネイ・ダルサラームの3カ国について、麻疹の排除状態※であることを認定した¹⁾。2014年に認定されたオーストラリア、大韓民国、マカオ、モンゴルを加えると、WHO西太平洋地域で麻疹排除を達成したのは7カ国（地域）になる。

わが国は、「麻しんに関する特定感染症予防指針（2007年12月28日厚生労働省告示第442号）」に基づき2012年度を排除の目標としてきた。2008年には11,013人であった麻しん患者は2012年には283人まで減少し、大規模な集団発生は起こらなくなってきていた。5年後の見直しで2012年12月14日に一部改正され、2013年4月1日に適用になった「麻しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第126号）」では、2015年度までに麻疹を排除し、WHOの認定も受けてその状態を維持することが目標となった²⁾。

この目標達成は、医療機関、行政機関（保健所等）、研究機関（地方衛生研究所等）、教育機関（学校等）、福祉機関（保育所等）、報道機関、関連企業、関連学会や医師会等を含めた国民の一人ひとりの努力の成果であり、誰が欠けてもなし得なかった快挙である。

排除が認定された2015年の麻疹患者報告数は、第1～17週の合計で16人（2015年4月30日現在暫定値）であり、全数報告が始まった2008年以降の同時期と比較しても最低である（図1）。2015年に報

1. 麻しん累積報告数の推移 2009～2015年（第1～17週）

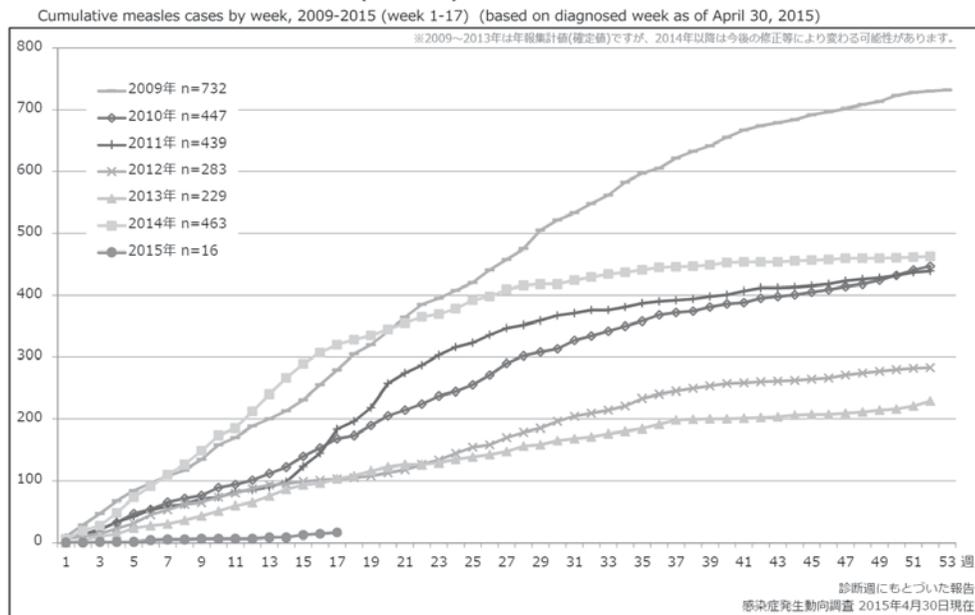


図1 麻疹累積報告数の推移 2009～2015年（第1～17週）
（国立感染症研究所 感染症疫学センター HP より引用）

6. 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2015年 第1～17週 (n=16)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-17, 2015 (as of April 30, 2015)

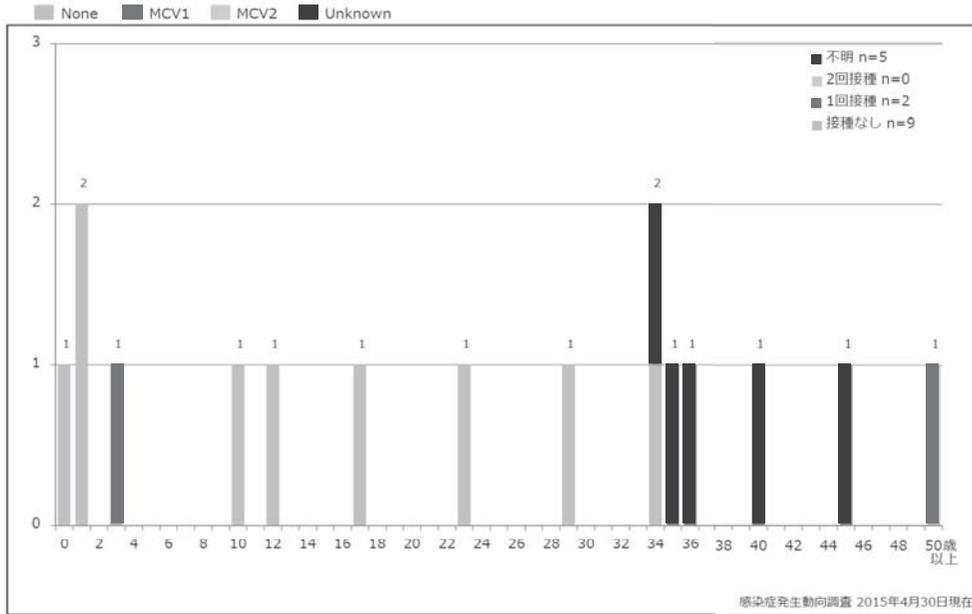


図2 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2015年 第1～17週
(国立感染症研究所 感染症疫学センター HP より引用)

告された16人の予防接種歴を見ると、接種歴無しが9人と最も多く、接種歴不明が5人、1回接種が2人であった。6～25歳は定期接種として2回の接種機会があったにも関わらず、4人とも未接種であった(図2)。

海外にはまだ麻疹が流行している国が多く、WHOの報告によると2013年の世界の麻疹患者報告数は194,139人であり、2012年の推定死亡数は12.2万人である³⁾。10年以上前に麻疹の排除を達成した米国でも2014年末から遺伝子型B3による麻疹のアウトブレイクが発生していることから⁴⁾、海外から麻疹ウイルスが持ち込まれても、広がらないようにすることが重要である。

そのためには、海外の麻疹の発生動向に注意を向けるとともに、予防接種率を高く維持して、麻疹ウイルスが持ち込まれても広がらないようにする必要がある。また、海外渡航前には麻疹の予防接種歴を確認し、麻疹に罹患したことがなく、1歳以上で未接種あるいは1回のみの接種の場合は事前に麻疹風疹混合ワクチン(以下、MRワクチンという。)を受けてから渡航するなど、海外で感染しないような工夫が必要である。

わが国の麻疹排除状態を維持していくためには、①一人患者が発生したらすぐに積極的疫学調査を実施して、感染拡大予防策を講じること、②全例の検査診断による質の高いサーベイランス制度を維持していくこと、③MRワクチンによる2回の定期予防接種率をそれぞれ95%以上に維持することが最も重要である。国民一人ひとりが実施できる対策としては、検査診断された麻疹の罹患歴がない場合は、1歳以上で2回の麻疹含有ワクチンの接種を受け、その記録を各自が保管しておくことである。

2007～2008年には麻疹輸出国と非難されたわが国も麻疹排除国になった今、次の目標は麻疹排除状態の維持と、2020年度までの風疹の排除である。

※排除状態：適切なサーベイランス制度の下、土着株による感染が1年以上確認されないこと。そして、WHO 西太平洋地域事務局は、麻疹排除が達成されたと確認するためには、以下に示す3項目の判断基準を挙げている⁵⁾。

- ①土着の麻疹ウイルス株が36か月以上にわたって当該地域で伝播していないことが示されること
- ②麻疹患者発生を監視する確実なサーベイランスにより麻疹排除の確認が可能であること
- ③ウイルス遺伝子型の解析により土着の麻疹ウイルス株伝播が起こっていないと示せること

参考資料

1. 国立感染症研究所、厚生労働省健康局結核感染症課：麻疹特集号．病原微生物検出情報 IASR.36：2015. 2015年5月現在 URL: <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/36/422j.pdf>
2. 厚生労働省：麻疹に関する特定感染症予防指針．2015年5月現在 URL: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/241214a.pdf>
3. WHO：Measles. 2015年5月現在 URL: http://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/measles/en/
4. 米国 CDC: Measles Cases and Outbreaks. 2015年5月現在 URL: <http://www.cdc.gov/measles/cases-outbreaks.html>
5. WHO 西太平洋地域事務局：Guidelines on verification of measles elimination in the Western Pacific Region, 2013. http://www.wpro.who.int/immunization/documents/measles_elimination_verification_guidelines_2013/en/